20231210 レムナント教会１部

みこころのままに(マルコ 14:35-36)

ユダヤ人の失敗は、結局、神様の願いに対して誤解をしていたことです。彼らは、神様から与えられました律法を徹底的に、文字通りに守ることが神の願い、みこころなんだと思っていました。本当に神様の願いはそういうものなのでしょうか。そして、今までの歴史を見ますと、教会が失敗した時期があります。それも結局は、教会なのに神様の願いを誤解していたから失敗していたという証拠が見られます。残念なのは、せっかく神様のみこころに従って救われた信者なのに、葛藤を覚えてなかなか葛藤から抜け出すことができないままでいるということです。それもなぜかと言いますと、葛藤せざるを得ない状況があるからではなくて、信者なのに神様の願いを誤解しているからです。それから、もし神の願いが何かをわかったとしても、それがその人の人生の基準になっていないと葛藤から自由になることはできません。このように神様の願いを正しく理解するということは、何より大切な信仰の内容、また人生の勝利のための鍵となります。今日イエス様は十字架の前で「できるだけこの杯を取り去ってください。しかし、私の願いではなくて、神のみこころのままになさってください」というように祈っていらっしゃいます。イエス様が十字架の前で神のみこころのままにとおっしゃいました。その神のみこころは、神様の願いは一体どういうものなのでしょうか。

1. 神様の願い(みこころ)は、罪人が救われて神様と一緒になることである。
言うまでもありません。神様の願い、神のみこころは、罪人の私たちが救われて神様と一緒になることです。なぜそれが神様の願いみこころなのでしょうか。

1）人間がどういう存在なのかわかれば-創世記 1:27、3:1-4、エペソ 2:1-3、ヨハネ 8:44、無知の故にもがき苦しむ。
それは人間がどういう存在なのか、その実体がわかればうなずくようになります。人間というのは自然にできたものではなくて、創造主の神様によって造られた被造物であり、特にその中で犬や猫や豚と違う神のかたちに造られた霊的存在です。それで神様が一緒になっていたので、それで幸せなそのような存在として人は造られました。しかし、残念ながら、人間が幸せになることを一番嫌っている目に見えない悪魔サタンが人間にやってきて、神様から離れて自由になりなさいと嘘をついて騙してしまいました。人間は愚かなことに、そのだましに乗ってしまい、神様を離れる罪を犯してしまいました。その結果、自由などは全くの嘘であって、エペソ 2：3 に書いてあるように、それ以来、人類は生まれながら神の御怒りを受ける子として生まれることになり、滅びの運命を抱えて生きることになりました。自由ではなくて、むしろ神様を離れることで、ヨハネ 8：44「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔が出たもの」であると言われるしかないサザンの奴隷になってしまいました。これが人間の実体です。学歴があるかどうか、性格が優しいのかとんでもない性格なのか、犯罪者なのか裁判官なのかなどは一切関係ありません。すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない。これが人間の実体なのです。時代がどう変わろうが、これは変わることなどありません。しかし、世の人々はこの人間の実体、人間の存在そのものがわかっていないので、人間の上に何もないという思想を持つことになりました。それをヒューマニズムと言います。人間は最高なんだという思想をもって、それから人間の幸せは神様ではなくて、物が豊かになり裕福さそのものが幸せだと思い込み、この地上はすべてであり、地上は永遠に続くと思い込んで、地上を天国にしようという思想を持つことになりました。なぜなのでしょうか。人間がどれほどダメな罪人なのか、その実体がわかっていないので。それで、このしそこのような思い込みを実現するために偶像を拝んだり、宗教を求めたり、あるいは人間のありったけのすべての力を絞って必死で頑張ろうとするわけです。しかし、それはだまされることで、ただのもがきに過ぎないものなので、その結果、いくら幸せになろうと頑張っていても、心も壊れて体も壊れて病んでしまい、人間関係にヒビが入り、家庭も崩壊してぐちゃぐちゃになり、争いが絶えないし、戦争は続くし、自然災害による禍に見舞われて、結局みなが死の恐怖に怯えて滅びの運命の中を歩くことになるので、残るのは重荷だけなのです。疲れることだけであって空しさだけが残るようになります。そして、このような不幸というものが自分の代で終わらないで、霊的遺産としてずっと受け継がれるようになるので、人間の不幸、滅びの運命は終わりがないのです。これが人間の実体ななのです。

2）絶対解決不可能(根本)
つまり、聖書が私たちに教えているのは、人が抱えているこの人生の不幸、この問題は絶対解決不可能な霊的問題であり、根本的な問題なんだと。

3）神様の願いは人の救い
なので、神様の願いは、神のみこころはこのように滅びるしかない人が救われることが神の願いなのです。神様は、罪人なのに、神を離れてしまった人間なのにその人を愛して、滅びののろいから解放されるように、そしてまた神様と一緒になるいのちを与えようとすること、それこそが神様の願いなのです。教会もこの神様の願いを誤解してしまうと、世の中の願いと変わらない願いをもって集会を開いたりするわけです。神様の願いは世界平和ではありません。環境保存でもありません。福祉を向上させることでもありません。教育を発展させることで、より良い世界、地上のパラダイスを作ることではありません。ひとりひとりが自分なりに成功を収めることでもなくて、健康に過ごすことも神の願いではありません。神様の願い、神のみこころは罪人が滅びの運命から救われることなのです。ユダヤ人はこの神の願い、みこころを誤解していました。今の地球上の多くの教会、クリスチャンが神の願いのことを誤解して、教会に通っていながらもメッセージが通じないし、神様の答えに預かることがなかなか難しくなっています。今日、礼拝を捧げるレムナント教会の皆さん、神の願い、神のみこころは人が救われることです。人のたましいが神様のいのちに預かるようになることです。皆さんが礼拝を捧げながらも願いがずれてしまうと、礼拝に恵まれることはなかなか難しいのです。

4) 救いの道は一つだけ-創世記 3:15、イザヤ 7:14、マタイ 1:21、1 ヨハネ 3:8、ヨハネ 19:30、マタイ 11:28、ヨハネ 1:12
そして、このような神の願い、みこころが成し遂げられる道は一本しかありません。神様は最初からほかのことはおっしゃったことがありません。女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕く。悪魔の頭を踏み砕いて人の罪を贖い、神のいのちを与えることができるメシヤ、キリストを送ることを約束されました。そして、そのキリストがどのように来られるかが預言されています。イザヤ 7：14「見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける」。そして、その預言通りにキリストがいよいよこの地上、この世に来られました。真っ暗な絶望のこの世に希望の光として、唯一の救いの道であるキリストが来られました。そのときをクリスマスと言います。マタイ 1：22-23 には、このことがこのように記されています。「このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。処女マリヤからメシヤ、キリストであるイエス様がこの世にお生まれになりました。救いの道が開かれることになりました。そして、この世に来られたキリストであるイエス様は、十字架にかかり、死の力を打ち破ってよみがえられることによって、悪魔のすべてのしわざを打ち壊して、神の願い、みこころである人を救うためのすべてのことを完璧に完了なさいました。それでそのイエス様は、苦しみさまよい、虚しさだけが残ってどうしようもない人々に向かって、このように招いていらっしゃいます。「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげますよ」と。私たちがイエス様の方に行くのではなくて、実は招いていらっしゃって、そのイエス様が聖霊を通して、皆さんの方に訪ねて来られるわけです。だから、救いの道はすべてを完璧に完了なさったキリストであるそのイエス様を救い主として心に信じて受け入れることです。「受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」。 神のみこころはキリストであるイエス様を心から信じて自分の救い主キリストとして心にお迎えすることで、滅びの運命から解放されて神の子どもになること、これこそが神の願い、神のみこころなのです。そのために教会を通して行っていらっしゃることが福音宣教なのです。だから神の願い、神のみこころはそこにあるということをぜひ覚えて忘れることがないようにしてください。

5）誰も止められない絶対願い-マタイ 24:14
そして、この神の願い、人を愛して、人を自分の力ではどうにもならない滅び、暗闇の運命から解放させて、神のいのちを与えられるこの神の願いは誰も止めることができない絶対願いです。それで聖書にはこの福音が全世界に宣べ伝えられてから終わりの日がくると約束されています。絶対願い。絶対です。地球がどう変わろうが、政治家がどういう動きをしようが、この神の願いは止めることができません。

2.神様の願い(みこころ)が絶対基準になる時、聖霊に導かれ生かす者となる。
なので、当然なことでしょうが、この神の願いが絶対願いだということがわかって、その神の願い、みこころを自分の人生の絶対基準にするときに、その人は聖霊に導かれることになり、たましいを生かす人生を歩くことができるようになります。なぜ人を生かす人生ではなくて、人をダメにする、人と競争するトラブルメーカーみたいな人生を歩いているのでしょうか。神の願いが基準になっていないからです。

1) 自分の願い、常識、法律(ルール)、利害関係(損得)、是々非々、うまく行く行かない、出来る出来ないを超えて
自分の願いがいまだに基準なのです。神の願いが何かわかって、神の願いが基準になるように。でないと、人間はそれぞれ自分なりの自分の願いを持って生きるものなのです。なので、神の願いが基準にならないと、自分の願いに翻弄されるしかありません。そして、世の常識というものがあります。もちろん常識はちゃんと理解して守らないといけないものでしょうけれども、常識以上になれません。常識に縛られることになります。神の願いが基準にならないと常識が基準にになるのです。また、さまざまなルールあり、法律、法則等々があります。それももちろん参考にしないといけません。しかし、それが正解でも答えでもいのちでもないのに、信者が神の願い、神のみこころが基準になっていないときには、そういったものに囚われることになります。律法に縛られることになります。そして、神を離れた人間の一番の特徴は何かというと、利害関係に敏感であり、損なのか得なのかにとてもデリケートなのです。神の願いが基準にならない限り、損得によって動かされることになります。となると、勝利の人生とは縁の無い人生を歩むことになります。それから、是々非々、何が正しいか、何が正しくないか、もちろんそれを見極める識別力をもっていないといけないでしょうけれども、それがすべてではないのに神の願いが実際的に基準になっていないと是々非々に振り回されるしかありません。また上手くいくのかいかないかに縛られて、できるかできないかなどに縛られた人生を生きるしかありません。しかし、神の願い、神のみこころがその人の人生の基準になったときには、そのすべてを超えて超越するようになります。

2) イエス様の願いまでも
イエス様は罪のない神の御子です。十字架のためにこの世に来られたにも関わらず、私たちの人間では到底理解できない神の御子が罪人の身代わりとなって十字架にかからないといけない、その場面なのです。それでイエス様は「もしできるならこの杯を取り去ってください」。このイエス様の願いはどこにも問題がありません。当然ではないでしょうか。にもかかわらず一秒も変わらないで、しかし、私の願いではなくて、神のみこころのままに。全人類が、私たちのような罪人が救われるための神の愛、神の願いのために、そのままにと祈りを変えられました。イエス様でさえ。神の願いがどういうものなのか胸に刺さることを祈りたいと思います。皆さんが何を主張して、何をそんなに引っかかってるのかわかりませんが、それは全部、内容がどうのこうの以前に、神の願いが基準になっていないのでそういったものが力を発揮しているからではないでしょうか。

3) 神の願い(みこころ)を基準に-ダビデ、パウロ、プリスカ夫婦、ガラテヤ 5:22-23
聖書にもこの神の願い、神のみこころを基準にして、超越の人生を送っていた人々の証拠がたくさんあります。その代表的な人がダビデです。ダビデは何の過ちもないのにサウル王が悪霊に取りつかれてダビデを殺そうとしていました。だから、青年の時期を大変な逃亡者の思いをしながら過ごすことになりました。ある日、そのサウル王を殺すことができるチャンスが訪れてきたわけです。そのときダビデは言いました。自分の願いでも自分の都合でもなくて、神のみこころ、神が立てられた主のしもべに私が手を出すわけにはいかない。それは道徳ではありません。神のみこころがダビデの基準でした。だから普通に考えると自分の都合が良い方向に持っていくはずなのに、ダビデはそれを超越しました。パウロも言います。エペソ 3：13 を見ますと、伝道者であるにもかかわらずパウロが牢屋に入れられていました。それにエペソの教会の信徒たちが少しつまずきを覚えていたという噂を聞いて、「ですから、私があなたがたのために受けている苦難のゆえに落胆することのないようお願いします。私の受けている苦しみは、そのまま、あなたがたの光栄なのです」。自分自身が苦しめられるか楽なのかは基準ではありません。人々が滅びの運命から悪魔の奴隷から解放されていのちが与えられる、この尊い神の願いのためであれば、それに有利な方向であれば苦しみはいくらでも甘んじて受けるよと。これが基準なのです。だれでも痛い目に遭いたい人はいません。これが神の願

い、みこころが基準になったときに、だれも止められないどんなことにも打ち勝てる超越の力なのです。また、ピリピ 1：23-24 を見ますと、「私は、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためには、もっと必要です」。福音宣教のために、人の救いのために、神のみこころのために、私は天国に行くことがずっと優っているのですが、この地上にいる価値がありますよと。神のみこころが基準だったので。そういう告白ができていました。それから、使徒 21：13 を見ますと、パウロがエルサレムに向かおうとしていた時に、預言者を始めエルサレムでパウロがどれほど苦しめられるか、また、逮捕されるということが前もって分かっていました。それでパウロが行かないように止めました。当然でしょう。パウロがそこに行くと大変な目に遭うとわかっているのに行くことを勧める人などいないのではないでしょうか。しかし、パウロはこのように言っているのです。「するとパウロは、「あなたがたは、泣いたり、私の心をくじいたりして、いったい何をしているのですか。私は、主イエスの御名のためなら、エルサレムで縛られることばかりでなく、死ぬことさえも覚悟しています」。 私の生きる基準は、キリストのため、つまり人が救われることのために、神の願い、みこころのために、これが私の基準なので、もうこれ以上、止めないように。それで結局エルサレムに向かいました。これが神の願いを基準にしたときに、私たちが普通に考えているレベルを超えて聖霊に導かれて勝利者の道を歩んで行くという姿です。プリスキラ夫婦はローマに住んでいましたけれども、突然、法律が変わってローマから追放されることになります。追い出されてしまいました。普通は「なんでこんな理不尽なことがあるのか。なんで私たちが自分の家、いままでの住まいを全部置いて追放されないといけないのか」と嘆いたりつぶやいたりするのが普通ではないでしょうか。しかし、神の願いを基準にして、神のみこころを基準にして見たときには、ローマから追放されたそれ自体は悪いことでしょうが、それを通して伝道者パウロと出会ってローマを生かすための神の導きだったので、むしろ感謝するでしょう。皆さんにどういう理不尽なことがあったでしょうか。それをそのまま見ると、それに溺れてしまいます。神の願い、福音宣教、人の救い、神のみこころを基準にしてそれを見ると感謝することになります。そうでないとクリスチャンでありながらもずっとそれがトラウマなのか、心の傷になってしまうのです。つまり神様の願い、神のみこころを基準にするときに、今までの解釈がべて変わり、選択することも変わり、決断も変わってくるようになります。それでその人は聖霊に導かれることになり、自分の力を超えて勝利者として立たされることになります。だからこそ証人として用いられるようになります。なんと素晴らしいことでしょうか。クリスチャン以外に誰がこのような生き方、このような人生の奥義を知ることができるのでしょうか。神様は私たちに神のみこころが何かを教えています。キリストの十字架を見れば明白ではないでしょうか。ただ私たちが自分の願いに囚われているあまり、神の願いに興味がありません。だから、荒野をぐるぐる回るだけなのです。早くそこから抜け出せないといけません。神のみこころを心から素直に受け入れて、そしてその神のみこころ、神の願いを自分の人生の基準にしましょう。

それで、今週一週間、これからもずっとでしょうけれども、心に引っかかっている憎い人、到底許せない人などを神様の願いを基準にして改めて考えてみましょう。それが小さい頃の何かなのかわかりませんが、あるいは今現在の感情、目の前の何かなのかもわかりませんが、何を基準にして見ているのでしょうか。皆さんの損得なんでしょうか。自己中心の基準から見ているのでしょうか。人が救われることを基準としてみると、世の中に憎い人は一人も存在しません。だめな人間も本当は存在しません。みなが救われないといけないのです。その思いをもってアプローチして、その人のために祈ることになるでしょう。

そして、今週からぜひ皆さんの周辺を具体的に思い起こして、救いを必要としている人々を思い出して、ぜひぜひ神の願いが届くように祈りましょう。今は皆さんの願いが基準なのでそれに振り回され縛られていて、こういうことは目に入らないでしょう。それが上手くいくことだと思いますか。地球は神の願いのために動いてるものです。だれも止められません。だから、神の願い、神のみこころを基準にしましょう。

それから学業、産業、職業、今皆さんが遣わされている現場、その地域などを見る目を、今まで見ていたものとは違って、神の願い、神のみこころを基準にして見直してみましょう。学業は何のためなのか。何のために勉強しているのか。なぜその地域に引っ越したのか。なぜそこに住んでいるのか。なぜその職場なのかに対して、神のみこころ、神の願いを基準にして見直していきましょう。そうすると見方が変わるし、祈

りが変わるようになります。それで、来たる 2024 年は神様の願いに従って、その願いが成就する主人公として新しい年を歩いていきたいなとそう願います。

（祈り）
恵み深い父なる神様。ありがとうございます。罪人であり希望のない、滅びるしかない運命に囚われていた私たちを憐れんで、私たちを救うための願いを持って御子キリストを十字架に引き渡されて、計り知れない愛と憐みをもって私たちを救い出してくださった主の恵みを心から賛美申し上げます。どうか、先に救われた私たちの胸に罪人を救われる神の願い、みこころがしっかり刺さって刻まれるように聖霊様がみことばをもって働いてください。それで今まで違うものに囚われて、心が病んで精神的にも混乱していたすべてから癒されて自由になるように、みことばの光が照らされることを心からお祈りをいたします。どうかこの神のみこころ、神の願いではないサタンのやぐらがキリスト・イエスの御名によって砕かれるようにお願いをいたします。ひとりひとりが神の願いに囚われて、すべてを超越して人を生かす証人として残りの生涯を歩いていけるように導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン。